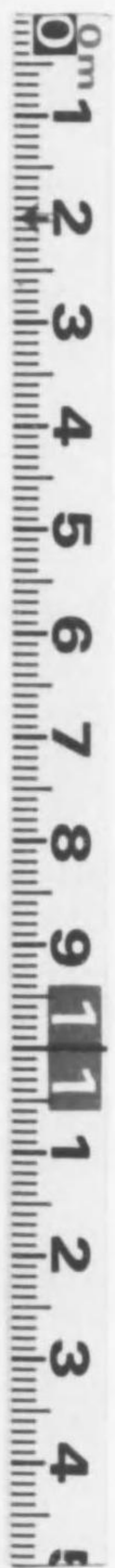


傳藤原公任藍紙萬葉集天

301  
10

帙入



始



獻弓削皇子歌三首

獻舍人皇子歌二首

舍人皇子御歌一首

鸞以作歌一首

泉河遊作歌一首

獻弓削皇子作歌一首

柿本朝中人麻呂歌集歌二首

登玩波山詠月歌一首

幸芳野離宮時歌二首

槐本歌一首



山上歌一首

春日歌一首

高市歌一首

春日藏歌一首

元仁歌三首

絹歌一首

鳴足歌一首

麻呂歌一首

丹比真人歌一首

和歌一首

石川卿歌一首

飯女歌 三首

暮叶歌 二首

少弁歌 一首

伴得麻呂歌 一首

式部大倭歌 一首

兵部川原歌 一首

詠上総木津名姫子 一首 并短歌

詠水江浦嶋子 一首 并短歌

見河内大橋獨去姫子歌 一首 并短歌

見武藏小塔治嶋作歌 一首

那智郡藤井歌 一首

平純瀛歌一首

春三月諸卿大夫壽下難波時歌一首

難波延宿明日遷來時歌一首

檢稅使大伴卿登沆波山時歌一首

詠霍公鳥歌一首

登沆波山歌一首

登沆波嶺為嬖歌舍日作歌一首

詠鳴鹿歌一首

沙弥女王歌一首

七夕歌一首

相聞

振田向宿祢退筑紫國時歌一首

拔氣太首任筑紫時娶葦原國娘子細  
魄伴歌三首

大神大夫任長門守時集三輪河邊宴  
歌二首

大神大夫任筑紫國時阿倍大夫伴歌  
一首

獻少削皇子歌一首

獻舍人皇子歌二首

石川大夫逸任上京時播磨娘子贈歌  
二首

藤井連達上京時娘子贈歌一首

藤井連達和歌一首

鹿嶋郡野橋別人伴歌一首

與妻歌一首

妻和歌一首

贈入唐使歌一首

神龜五年代秋八月歌一首 并短歌

天平元年己巳冬十二月歌一首 并短歌

天平五年天遣唐使胎教難波入海之時

親母贈子歌一首 并短歌

思娘子伴歌一首 并短歌

挽歌

宇治若郎子宮所歌一首

比伴國作歌一首

過足柄坂見死人作歌一首

凶毒屋敷女墓時作歌一首 并短言

哀弟死去作歌一首 并短言

詠勝庶真間娘子歌一首 并短言

見菟原處女墓歌一首 并短言

雜歌

泊瀬朝倉宮御宇大泊瀬印式天皇

御製歌一首

暮去者小椋山今計庶之今夜者不出寐亦



良霜

ゆへにふををくらねわたりておのゝ  
こよひのちのちいねにふらして

天武天皇御製不審山栴園集

忘年宮内省天皇幸比伊國時歌二首

為妹吾と松奥邊有と塚将来奥津白浪

ふよえららうせよむらつししらひ  
ふえららわわらふらひふらむらむら

朝霧尔流尔之礼不千言一代若之山道折枝

あそふそあそふあそふあそふあそふ  
あそふあそふあそふあそふあそふ

右二首伊右大臣

大寶元年十月天皇御製天皇御記

大正九年 卷十一 若上天皇 大行天皇 幸紀

伴國時歌十三首

為妹我求於伎邊有白土依來於伎如

白浪

いぢのよわわしにうらえこむねはしめり

しんたよりせよねし一しん

右一首上見既畢 但歌輝小授筆代

相遠因以異載

白塔者幸在約大船尔真梳盤貫又將願

しんたよりせよねし一しん

まのりしねままうらなみむ

三右部乃浦塩莫漏庶鳴在釣若海人

幸見爰來六

みいひあけうししよみ一ねししん

了りぬるわらうをうらなみむ

相用滂出二我者湯羅前釣若海人辛見  
又相車

わと、わらけ、こゝろ、い、わ、わ、わ、あ、ま、ま  
あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

湯乃前塩乾今祚良志白祚之磯浦其  
辛較而滂動

ゆらあまこしひひまけら

黒牛方塩干乃浦辛紅ま糶酒藤延世  
者誰妻

く、ん、う、し、う、し、い、ひ、の、う、ら、を、く、は、な、り、わ  
た、し、よ、う、え、な、ま、ま、ひ、し、ゆ、く、は、な、る、あ、ま

風葉乃瀨之白浪徒控斯依久流见人

小 一之松見  
依ま藤

う、せ、い、た、け、う、い、わ、し、ら、い、み、了、了、了

三、二、一、く、つ、み、ひ、で、わ、し、ま

石一首と昔憶良歌聚歌林口長各  
寸意古麻呂應 詔作此歌

我背火氣使打ま外記出立之此松原平  
今日香過旬

わ。ま。こ。の。つ。ひ。こ。ん。と。せ。い。て。う。ち  
ふ。の。う。り。け。を。う。し。ま。し

藤白之三坂平越之白栝之我私平者則  
法香業

市らししふれみ々々をこゆとしふふ  
わ。こ。ん。も。て。は。や。れ。る。る。る。る

訪能の二黄柴常敷祓岳之山黄柴者今  
日教遣

せれやうまふら流れしくみまふ

やふもみち月けしやらららむ

山は庭園は秋大我野之川に菊菊敷塵カ  
有はち

やまららけきこころをゆくおはけりか  
うはにかりしていかりか

東國之者う雄之響矢用麻取靡坂上  
余を安苗

きりくりのりーゆきをわつたもて  
しーくやなりひくさくのーまうあつ

城園余不心将は来妻結妻依来西尾妻

常き長袖

一云 常き長袖  
常き長袖

きよくくー やららららららららららら  
つうよわかこころをーうーのひなこころ

石一首或云坂上忌寸人長袖

後人歌二首

初蒙古才方は若我位は越歴今日そ面  
莫寒根

あはれとどしとどしとゆくとまのよは川とや  
こゆんけしうほめしあやうね

後始り吾志始者白雲棚引山平今白香城  
おくれわてわこをわをしらくせ  
こはひくやあをけしとゆん

新慈達皇子歌一首 依仙人形

常之倍亦復冬性式義府不放山任人  
とこつたなほしゆけやうた  
あしきけなうやうた

獻舍人皇子歌二首

妹手取る川と治球手新者刺花す用鴨

いものうをさわてしひよらうらうらふをわ  
わささあをいしひらくつよのそ

まの者殺遊名約三和山者未合若約勝尔

たううよれあさうはなみはたわくとも

われそいつわも一わさわかぢみ

暮在者三更判之照月高鳴山隱惜毛

今の上はれそよけをさうていつ月れ

こううやあまかくらくもそえ

比伴國作歌二首

吾恋妹相佐交と浦丹和行敷一鴨持寐

ワのこあいのもあいてこまのあうら

いふわのこしひらわもむねむ

よ返洲春惜悵夜美袖下礼亭一鴨持寐

よまうけあはよくをさあうらを

いふもてうらふくひりやのえねん

鷺坂作歌一首

細比礼乃鷺坂山白菅自吾余は保波屋妹

余未

ぼろひりおのさよちうやよみしらぬし

わねいはいきていよよしりやをえ

泉河作歌一首

妹川入出見川乃床余馬余之雪志未卷世

いぢりいといさうてうをふゆ。なやふを

ゆきのかいふやいよるよゆ。ま

名未河作歌三首

れ子乃名未之川過予春而吾之法寺也

念良武可

いふもてつなきの。けつをけつと。や

わよふらぬまといつたよらん。



家人使在之者而乃与久列竹岳寄乎結  
念者

いひまのつらなるうらしむるも  
よくわとやれをばらまるとわかへ

蘇千人母在八方家人者由酒良年同使念者

宇治河伴歌二首

巨椋乃入は聲な理射目人乃伏見竹田  
井本馬渡良之

おきくらねいわらうひくはりいぬいぬ  
やうわううわううわううわうう

金風山吹物乃聲苗天雲朝相鴨

あまうせのたようくせめめひく  
はやくしうらうらうわうわう

獻り刑皇子歌三首

佐宵中寄夜有海去良斯鳥音所聞空  
渡見

市ぶのりともよほよらねらーいわおわ  
たこゆらそらそらさわさわのみ杜

妹雷茂莉音夕霧来鳴ら遊と及之  
いりあーりしりりわわねゆさわ

よひさてりりねとーいささよ

雲隱鳥時秋山黃斤待時有雁遊

くもいりりりわいりりささあーあーあ  
とみららららららささはさささ

獻舍人皇子歌二首

椽手折多武の霧茂臨細川瀬波驟祥田

うららららなむかやまきりしりりり  
はららはのささなみさわさわ

冬未成看部密云殖木實成時斤約者  
寺叙

ふゆ未なるまのけりつをこひくうとさあ  
みまなるともをさうさうはかやま

舍人皇子御歌一首

黒玉夜霧と和乎馬屋松霏霰麻天全  
うけよまのうらさよわくらぬらんもてあ  
うまのうへこまひひくよてま

鸛坂伴歌一首

宍代久世乃鸛坂目神代看者依下秋者  
叙

やまうらんれくまのさうまうみうら  
けりけりしあははらちか

泉河邊伴歌一首

看草馬非山自越東尔流乃使者宿也  
奈利

けつくたをむぶくひやぶとこくひ  
ふよのつひをやとそくひ

献り刑皇子歌一首

御食何南洲山之巖者落波を列了刑者  
首

右抄本胡名入麻呂之歌集所出

吾妹火之赤紫濛陰之值之四予刑乃藏倉  
世之隨

わきもくろあもわらししうとて  
いかにともあんなくはしのま

百轉八十に岫廻平榜雅未案小岫若唯見  
不足可同

し、ひまのやうはまをこま

あきしりかこしよみかあをりるわうえ

右二首或之抄本胡也人麻呂作

登沓波山詠月一首

天原雲無夕今鳥上乃宵度月乃入春怪毛

わたりをくくもいよきさうけたまの  
とたのけされいらよくもむ

幸芳野離宮時歌二首

瀧上乃三船の從煙津邊來鳴度方誰爰  
見鳥

いさのうへかみよねかやらのあまの  
きいよわうけなれよふこさ

落夕雲知流水之繁觴与竹青類与折尔

川鼓所見

たふさきらひのうみはのいはすわく

どろりぶとよふつとよのけりゆ

右二首作者未詳

枕中歌一首

樂浪之平山凡之海以昔釣為海人し袂  
爰所見

こくく川にひよあやう、せうみふは  
あふやう、あふあふ、つひゆ

山上歌一首

白那 亦乃瀟松之木乃平剛草茂也  
二箇年薄徑陸 此号在

しんいみおえよ、流めきおふむけ  
くくちてり、とーけいねん

右一首或曰川場皇子所作歌

春日歌一首

三川之洲瀨物不落左提刺今我平湖千見

波魚尔

みつはけのよちせもむらぬとくさし  
こふもてぬれぬけぬこもかみ

高帝歌一首

是利思代傍行舟薄高堤之足速之水  
尔桓尔隆

かみくまめしこふいそねなし  
けいしこゆんいよわねをハ

宇合野歌三首

睡之夢所見下梳嶋乃石越浪乃敷之志  
刑念

けいしこゆんいよわねをハ  
いけいけなるかきまそしうね

山岳之石田乃小野之毋藤原見下式之  
山道越良武

やまーなまいそふわをか、けくそそと  
ふい、やまの、やうらうら、ゆしん

鴨 山科乃石田社余布麻越名並吾妹余直相

琴竹歌二首

母山麓棚川右夜深今吾舟将泊等万里不  
知母

おもとやうらうらみふしひまふ、よるらて  
わ、ふねとらんくらり、らるえ

忠下雅素く不勝而水尾崎真長乃浦字又  
願津

おもとひー、くわとまうねて、みそりのさき  
よがり、わうらとらうら、らみい

小弁歌一首

つちこころ、月、言、之、な、臣、華、と、言、甫



高鳴之是利。湖平滂道而垣津。昔年浦合  
香埒滂

いづしあのあしあうみとこよを  
しひてまうをいよやこくふ

伴保麻呂歌一首

吾壘三重乃河原之儀。裏余也。是鴨津也。河  
嫩可物

式部大臣若野外歌一首

山高見白木綿花。尔落多。菴津。复身之川  
川。雖見不化香同

やまの。み。ら。ゆ。し。を。の。ま。た。ら。了。き。は  
な。つ。み。の。け。と。ふ。わ。と。あ。ま。も

兵部川原歌一首

大龍平。色。白。復。甚。余。傍。河。津。川。瀬。見。何。明。沙  
お。月。の。ま。を。あ。ま。く。な。り。は。た。し。取。り。く。る

キヨシヨシハセキニツラウシキヤルシク

歌上德未珠右娘子一首 并短言

水長島安房今速有棒与未乃珠右有胸  
列之廣吾妹腰細之須輕娘子之具安之  
端心余如華咲今主者玉棒乃道以人者  
山行道不云而不在尔同公奴稍並隣之  
君者預止妻離今不乞尔銓右倍奉人  
皆乃如乞迷有者容艷縁今曾妹者多被  
礼之有家而

反歌

金門尔之人乃来主者夜中女身者田菜  
不知出言相才

咏水江浦鸣子一首 并雅号

春日之震时尔墨台之序余出姑而钓船之  
得手良布见者古之事曾前念水江之浦  
鸣火之坚真钓綯钓於松及七日家尔毛不  
来而海界于過而榜外余海若神之女余  
避余伴汗甄越相訛良比言成之質婆加  
昔结常代余公海若神之官乃内隔之细有  
殿余推乃二人入塔而者不为死不为而永世余  
有家田物乎世间之愚人乃吾妹火余告而语  
久頃史者家婦而父如尔事毛古良比如明  
日吾者来南登之家礼婆妹之春义节也

遺復矣來而今將相此尔良婆以送用  
勿勤常曾已良久尔坚目呻事乎里玉吾余  
遂来尔家见社宅毛见金手里见之孩里毛  
见金手垢常的许尔念久從尔出尔三歲  
之間尔垣毛無家滅自八孩以若乎用而見  
年齣如尔家者將有登尔送尔披尔白雪  
之自相出尔常也過棚川去者主是川社  
旅返側足受利日管類情消去奴若有之  
皮毛披奴黑有之鬚毛白班奴由尔由尔披  
乳左倍尔尔後逐壽死邪流水江之浦地  
子之家以見

友歌

常世遊了任物平 劔刀心之引 仙根音也老  
君

とこよふとそむつとて力をつとてふと  
つとこよふとそむつとて力をつとてふと

見河内大橋獨去娘 子歌一首 并題言

級照所是羽河之左舟 篋大橋之と任は赤  
索殺十引小篋用指和服而直獨伴渡者  
児若若草乃夫香有良武櫛實之術以持  
宿同卷乃故我妹の家乃不知久

友歌

大橋之頭年家有有心 堪又術と現余金廣借  
中尾

大橋之頭年家有有心 堪又術と現余金廣借  
中尾

301

10

かな名蹟全集 第七

昭和十年十一月一日印刷  
昭和十年十一月五日發行  
定價金貳圓參拾錢

紙 萬葉集 (全)  
編輯者 かな名蹟全集刊行會  
代印者 武田基一  
發行所 東京市下谷區中野町七二  
田 秀一  
川 秀一  
同人 黒川 秀一

發行所 東京市下谷區中野町七二  
田 秀一  
川 秀一  
同人 黒川 秀一

終

